

## 平成27年度宅地建物取引士本試験 解答予想 (H27.10.20現在)

日本マンパワー

下記の正解番号は解答予想として、また、合格予想点は問題の難易度から、いずれも当社が予想したものです。  
試験結果等が確定したものではありませんので、ご注意ください。  
また、本解答予想や試験内容に関するご質問は、対応いたしかねますので、予めご了承ください。

問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8	問題9	問題10
4	2	4	3	3	2	2	1	1	4
問題11	問題12	問題13	問題14	問題15	問題16	問題17	問題18	問題19	問題20
4	1	1	4	4	1	3	2	2	4
問題21	問題22	問題23	問題24	問題25	問題26	問題27	問題28	問題29	問題30
1	4	3	4	1	1	4	4	2	3
問題31	問題32	問題33	問題34	問題35	問題36	問題37	問題38	問題39	問題40
2	2	3	3	4	1	3	2	3	4
問題41	問題42	問題43	問題44	問題45	問題46	問題47	問題48	問題49	問題50
1	3	2	2	4	3	3	2	3	1

●合格予想点 31 点±1

<試験概要>

●全般的な難易度の印象

権利関係は前年と同様に出题形式においていわゆる個数問題が1問出題されており、例年より難しかった。法令上の制限は例年並みでした。税金問題の2問はやや難しかったと思われますが、その他法令は例年並みであったと思われます。

宅建業法は、個数問題が8問も出題されていました(平成26年度は6問、平成25年度は4問の出題でした)。簡単に正答できる問題が極めて少なかった印象です。

合格点は、権利関係の問題が難しかったことと宅建業法問題の難易度が高かったことを考慮して、前年より1点低い31点前後と考えます。

●出題分野における今年の特徴的な出題

民法の問題では、問7の抵当権の順位の譲渡・放棄の問題は、平成18年度問題5正解肢1以来の出題となっております。

法令上の制限の問題では、問21において国土利用計画法の単独問題が3年ぶりに出題されていたのが注目されます。

宅建業法の問題では、宅地建物取引士に名称が変更となって最初の試験であることから、問35において、平成26年の法改正により新たに加わった宅地建物取引士に関する3カ条の条文内容の正確な理解を問うていました。